

様式第3号

研修報告書（研修費）

令和元年11月27日

長久手市議会議長
加藤 和男 様

長久手市議会議員 山田かずひこ^印

政務活動費を充てることができる経費の範囲の運用指針により次のとおり届け出ます。

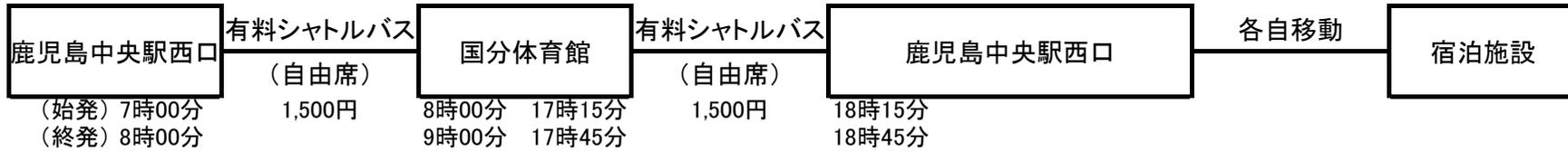
年 月 日	令和元年11月 6日（水）から 令和元年11月 8日（金）までの3日間
研 修 先	第81回全国都市問題会議 会場：鹿児島県 霧島市国分体育館 (行程表は別表のとおり)
成 果	別紙のとおり
経 費	金 82,300 円（政務活動費対象経費） 金 89,500 円（全体経費） (明細は別添のとおり)
提 出 資 料	○領収書の写し

※研修を実施した後は議長に1カ月以内に提出するものとする。ただし、1カ月以内が翌年度の4月20日を経過する場合は20日までとする。

令和元年11月6日



令和元年11月7日



令和元年11月8日



明細書

藤が丘	⇔	中部国際空港	1, 600円×2回	3, 200円
中部国際空港	⇔	鹿児島空港		36, 700円
鹿児島空港	→	鹿児島中央駅前		1, 300円
鹿児島中央駅西口	⇔	国分体育館	1, 500円×3回	4, 500円
国分体育館	→	鹿児島空港		0円
宿泊費 (11月6日、11月7日)			33, 800円 (上限13, 300円×2)	26, 600円
参加費				10, 000円
				合計82, 300円

第81回全国都市問題会議 報告書

山田かずひこ

〔日 程〕 令和元年11月6日～11月8日

〔視察先〕 霧島市国分体育館

〔目 的〕 近年、全国各地で多種多様な災害が発生している。少子高齢化が進む中で、「自助」「共助」「公助」の機能を組み合わせながら、災害に対応していくことが求められる。2日間「防災とコミュニティ」をテーマとした会議に参加することで、課題解決を見つきたい。

〔感想・所見〕 テーマ「防災とコミュニティ」

まだ記憶に新しい、台風15号、19号による甚大な被害に遭われた地域の状況から照らし合わせながら多くのことを学んできました。

防災は地域の現場から出発するのと、行政の財政から出発するのでは向かう方向が違っている。条例のことは知っていても、現場を知らなければ現場では動けない。共助の重要性と公助には限界があることを知る必要がある。そのために、地域コミュニティが必要とされる。

地域コミュニティはどのようにして作っていくのか。静岡県三島市では、子どもからお年寄りまで幅広い世代が参加する地域の運動会で防災に関する競技を実施し、多くの地域住民が触れ合える機会をつくることにより、災害時の助け合い風土を醸成し、地域の絆づくりを生かした自主防災組織の活性化を進めています。

これから訪れる高齢化に対して、防災活動の担い手確保のために、教育委員会と連携し、小中学生が地域の防災訓練に積極的に参加するよう呼び掛けている。中学生が中心となってチャリンコ隊を結成し、市内の高齢者宅を回っている。また、200世帯を超えるマンションでは、情報収集や避難支援を行う小中学生によるジュニアレスキュー隊を結成し活動している。

東京都区部のある地区では、大型マンション化された地域で、停電してエレベーターも停まり、水も上がってこない高層マンションに居住する高齢者を想定し、地元の高校生がマンションの階段を駆け上り各世帯に声がけして回ることをしている。

学生たちがかけがえのないステークホルダーにカウントされている。

本市においても、災害というと南海トラフを想定して、災害に対して意識が低いように感じられる。今回の台風15号、19号のように風・水の被害は本市においても台風の進路によっては十分考えられることであり、市内一斉避難訓練においても参加者を増やしていくような仕掛けが必要であると考えます。

今回のセミナーから、行政の力だけで災害を乗り越えることはできない。「自分の命は自分で守る」「自らの地域は皆で守る」という自助・共助、そして公助がバランスよく機能することが大切であることがよくわかりました。

